

論文要旨

【目的】

リエゾン精神看護専門看護師（以下、LN）が行ったケースコンサルテーションの事例の文献レビューを行い、システムズ・アプローチの視点を用いた図式を通して、LN が、どのような思考・解釈のもとに、どのシステムに、どのような介入を行い、どのような変化が起こっていたのかを明らかにする。

【方法】

医学中央雑誌 Web 版を用いて検索を行い 189 件の文献から選定条件に一致した文献 14 件、事例 17 件と、PubMed を用いて検索を行い 101 件の文献から選定条件に一致した文献 6 件、事例 15 件、合計文献 20 件、事例 32 件を分析対象とした。各事例をシステムズ・アプローチの視点を用いて「LN の思考・解釈」「LN の介入したシステム」「LN の介入内容」「介入後のシステムの変化」を図示し、コンサルテーションを必要とした事象の背景や患者・家族にかかわっている人々の関係性、行動や認識の変化を分析した。

【結果】

LN にコンサルテーションを依頼した理由は、不安や抑うつなどの精神症状に関する相談と患者や家族の対応に困る行為に関する相談が 32 件中 28 件であった。患者や家族の対応に困る行為のほとんどは、適応障害の症状によって引き起こされていたと考えられる。システムズ・アプローチの視点から LN の介入したシステム、介入内容をとらえると、LN は、患者・家族、看護師の下位システムを感情的、精神的、認知的、行動的側面からアセスメントし、それに基づいて患者・家族、看護師・医療スタッフの認知システム、感情システム、行動システムに対し、外部や内部からの変化にシステムの適応を支えるように介入を行っていた。また、LN は患者、看護チームのシステムが安定に向かうように支援を行うことで、患者を取り巻くシステム全体が患者ケアという目的に向かってまとまっていくような働きかけを行っていた。

【結論】

システムズ・アプローチの視点で、患者を取り巻く環境をとらえていくことは、LN がコンサルテーションを行う際、各システムやシステム間の状態把握、介入方法や介入効果の大きいシステムの選択に有用な方法であるといえる。さらに、リエゾンチームとして活動していくうえで、多職種との共通理解を深め、互いの専門性を生かした効果的な介入を行っていくことに役立てることができると考える。